

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

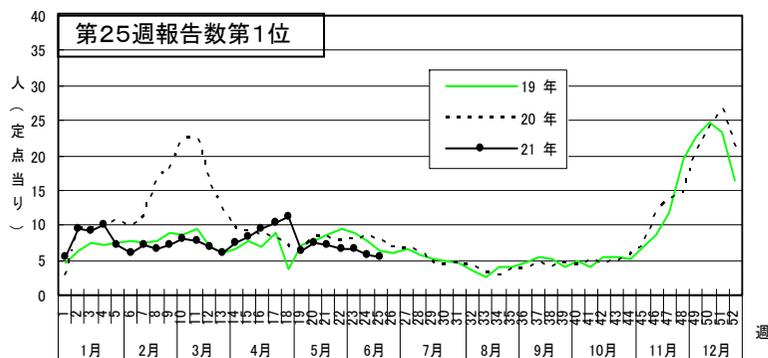


KAWASAKI CITY

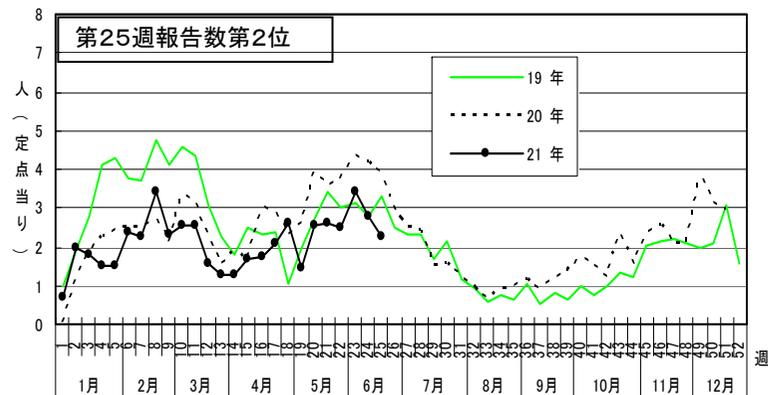
平成21年6月15日（月）～6月21日（日）〔平成21年第25週〕の感染症発生状況

第25週で報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 伝染性紅斑の順となっています。伝染性紅斑の報告数が引き続き多くなっていますので注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



伝染性紅斑(りんご病)

第25週の報告数は、罹患数70人、定点あたり2.12人となりました。定点あたりの過去5年平均の0.99と比べると倍以上になっています。

伝染性紅斑は両頬がリンゴのように丸く赤くなることから『りんご病』とも呼ばれています。5～9歳での発生が最も多く、次に0～4歳が多くなっています。季節的には、年始から7月上旬頃にかけて症例数が増加し、9月ごろが最も少なくなります。

紅斑の時期にはほとんど感染力がないので、二次感染予防策の必要はありません。ウイルスを排泄する時期には特徴的な症状を示さないため、実際的な二次予防策はありません。

○潜伏期間○ 10～20日

○症状○

頬に赤い発しんが現れ、続いて手や足にもあみ目・レース状の赤い発しんが見られます。発しんは1週間程度で消えますが、なかには長引いたり、一度消えた発しんが短期間のうちに再びでてきたりすることがあります。また、頬が赤くなる7～10日くらい前に微熱やかぜ症状がでることがあります。



○気をつけたいこと○

ほとんどが合併症を起こすことなく自然に治る病気ですが、妊婦感染による胎児への影響が指摘されていますので、患者との接触は発しん期であっても避けた方がよいでしょう。

伝染性紅斑発生状況(3年間)

